

令和2年(2020年)10月8日(木曜日)

# 基礎まで上昇見られず

## 三島地下水 駅前開発影響想定 検討委



再開発事業の地下水への影響を審議した対策検討委員会＝三島市民文化会館

地下水位が観測史上最高を記録し、地上91層のマンションの建設地付近では地表から10層程度の地中まで上昇したとされる。一方、マンション基礎の深さは地中6層ほどと想定し、データ上は過去最高の地下水位でも数層の余裕が残るとの見通し。商業施設の低層棟を建てる場所でも、基礎と地下水までの間隔があったとした。ただ、建設地全体では地盤となる溶岩層の厚みに差があり、さらに細かなデータ収集の必要性も指摘された。市は今後、建設計画が明らかになる中で、必要があれば組合側にボーリングなどの追加調査を求める考えを示した。

三島駅南口周辺の再開発事業による地下水への影響を考える対策検討委員会は7日、第6回会合を三島市民文化会館で開いた。多雨により上昇した地下水位が高層マンションの基礎部分に達する可能性について審議し、筑波大教授の辻村真貴委員長(地下水)は「現時点でそこまでの上昇はみられない」との見解を示した。降雨量が多い今年は